

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第4025547号

(P4025547)

(45) 発行日 平成19年12月19日(2007.12.19)

(24) 登録日 平成19年10月12日(2007.10.12)

(51) Int. Cl.

F I

F 1 6 B 21/06 (2006.01)

F 1 6 B 21/06 A

F 1 6 B 5/00 (2006.01)

F 1 6 B 5/00 F

F 1 6 B 19/00 (2006.01)

F 1 6 B 19/00 F

請求項の数 4 (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願2001-549934 (P2001-549934)
 (86) (22) 出願日 平成12年12月12日(2000.12.12)
 (65) 公表番号 特表2003-520929 (P2003-520929A)
 (43) 公表日 平成15年7月8日(2003.7.8)
 (86) 国際出願番号 PCT/EP2000/012561
 (87) 国際公開番号 W02001/050026
 (87) 国際公開日 平成13年7月12日(2001.7.12)
 審査請求日 平成14年6月19日(2002.6.19)
 審判番号 不服2005-23623 (P2005-23623/J1)
 審判請求日 平成17年12月8日(2005.12.8)
 (31) 優先権主張番号 199 63 721.0
 (32) 優先日 平成11年12月29日(1999.12.29)
 (33) 優先権主張国 ドイツ(DE)

(73) 特許権者 507046288
 アー ライモント エ カンパニユイ
 フランス国 F-38000 グルノーブ
 ル クール プリア 115
 (74) 代理人 100061815
 弁理士 矢野 敏雄
 (74) 代理人 100094798
 弁理士 山崎 利臣
 (74) 代理人 230100044
 弁護士 ラインハルト・アインゼル
 (72) 発明者 ダニエル ボヴィル
 フランス国 パリ リュ デ プレリー
 45

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】被覆プレートと支持体部分とを解離可能に結合するプラスチッククリップ

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

被覆プレートと支持体部分とを解離可能に結合するプラスチッククリップであって、ヘッド部(1)と、支持体部分(4)の開口(5)に差込可能な固定足(2)と、ヘッド部(1)にスナップボタン状に結合可能でかつ被覆プレート(6)に固定される上側部分(3)とにより構成されている形式のものにおいて、

ヘッド部(1)が、開いた円筒状ポットの形をしていて、中心孔(7)を有しており、該中心孔(7)の縁(8)に、斜めに内向して突出する支持区分(9)が一体成形されており、固定足(2)の上に支持皿(10)が設けられており、該支持皿(10)の上にT字形の保持ピン(11)が立っており、該保持ピン(11)のヘッド(12)が、支持区分(9)の弾力的な拡開の下で中心孔(7)を通して押込可能であるように寸法設定されており、しかも支持区分(9)がピンヘッド(12)の通過後に再びはね戻り、ピンヘッドの下側を支持するようになっており、かつ保持ピン(11)のヘッド(12)が、押し込まれた状態において、支持区分(9)の縁(16)に対して、半径方向に摺動可能であることを特徴とする、プラスチッククリップ。

【請求項2】

保持ピン(11)のヘッド(12)が、ヘッド(12)の上縁(13)で、中心孔(7)の下縁(14)と、薄いウェブ(15)を介して裂断可能に結合されている、請求項1記載のプラスチッククリップ。

【請求項3】

10

20

上側部分(3)が、被覆プレート(6)に直接組み込まれている、請求項1または2記載のプラスチッククリップ。

【請求項4】

上側部分(3)が、リング(19)により構成されており、該リング(19)の縁(20)が幾分外側を向いており、ヘッド部(1)が、リングの縁(20)に対向して位置するヘッド部の縁(22)の全周に分配配置されていて内側に突出している少なくとも3つの係止突起(21)を有しており、該係止突起(21)が縁(20)とスナップボタン状に協働する、請求項3記載のプラスチッククリップ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

本発明は、被覆プレートと、支持体部分、特に車両ボディのドアフレームとを解離可能に結合するプラスチッククリップであって、ヘッド部と、支持体部分の開口に差込可能な固定足と、ヘッド部にスナップボタン状に結合可能でかつ被覆プレートに固定される上側部分とにより構成されている形式のものに関する。

【0002】

例えばドイツ連邦共和国特許第4330102号明細書に基づいて公知のこのような形式のクリップでは、ヘッド部が固定足と一体的にかつそれゆえに堅く結合されていることが、欠点として挙げられる。そのためにこのクリップでは、被覆プレートの固定箇所と支持体部分内の固定開口との間の製作誤差の差違を補償することは、上側部分が固定的に被覆プレートに取り付けられている限り、不可能である。

【0003】

この欠点を取り除くために、本発明によるプラスチッククリップは、以下のように形成されている。ヘッド部は開いた円筒状ポットの形をしており、また中心孔を有しており、この中心孔の縁に斜めに内側へ突出している支持区分が一体成形されており、さらに固定足の上に支持皿が設置され、この支持皿の上にはT字形の保持ピンが立っており、このピンのヘッドが支持区分の弾性的な拡開の下で、中心孔を通して差込可能であるように、このヘッドは寸法設定されており、その際ピンヘッドの通過後に、支持区分が再びはね戻り、そしてピンヘッドの下側を支持している。

【0004】

本発明の構成において、保持ピンのヘッドが、ピンヘッド上縁で、中心孔の下縁と、薄いウェブを介して、裂断可能に結合されていると、注型技術上の理由から、有利である。このように構成されていると、二つの部材から成るクリップが、有利に1つの成形型で射出成形され、続いて保持ヘッドをヘッド部の中心孔内へ打ち込むことによって、クリップに組み合わされる。このことは、保持ピンのヘッドが、製作誤差を補償するために、支持区分の縁に対して半径方向に摺動可能であるという別の利点を有している。

【0005】

ヘッド部にスナップボタン状に結合可能な上側部分は、従来技術においては通常、被覆プレートに一体成形された鍵穴状のポケットに差し込まれる。しかしながら、ヘッド部と固定足上の保持ピンとの間で製作誤差が補償されるので、本発明の別の有利な構成では、上側部分を被覆プレートに直接組み込むことは、製作技術上難なく可能である。

【0006】

次に図面を参照しながら、本発明の実施例を説明する。

【0007】

図1：被覆プレートに一体成形された上側部分と、その下の配送状態にあるプラスチッククリップの側面図。

【0008】

図2：図1の線II-IIにそって切断した、同じプラスチッククリップと上側部分。

【0009】

図3：支持体部分の開口と、その上の押圧によって上側部分と組み合わせられた状態にある同じクリップ。

10

20

30

40

50

【 0 0 1 0 】

図 4：開口に差し込まれた後に、上側部分が取り外された同じクリップ。

【 0 0 1 1 】

図 5 a：組み立てられたクリップにおける、保持ピンに対する半径方向へのヘッド部の摺動可能性を示す図であって、保持ピンに対するヘッド部の第 1 の位置を示す図である。

【 0 0 1 2 】

図 5 b：組み立てられたクリップにおける、保持ピンに対する半径方向へのヘッド部の摺動可能性を示す図であって、保持ピンに対するヘッド部の第 2 の位置を示す図である。

【 0 0 1 3 】

図 5 c：組み立てられたクリップにおける、保持ピンに対する半径方向へのヘッド部の摺動可能性を示す図であって、保持ピンに対するヘッド部の第 3 の位置を示す図である。

10

【 0 0 1 4 】

図示されているプラスチッククリップは、主としてヘッド部 1 と固定足 2 と上側部分 3 とにより構成されている。この上側部分 3 は、被覆プレート 6 に固定されており、またヘッド部 1 とスナップボタン状に結合可能である。

【 0 0 1 5 】

特に図 2 から分かるように、固定足 2 は、ばね弾性的に圧縮可能な 2 つの支持脚 1 7 により形成されている。両支持脚 1 7 は、中心ウェブ 1 8 を介して、傘状の支持皿 1 0 に結合しており、そして支持体部分 4 の開口 5 に差込可能である。支持皿 1 0 が支持体部分 4 上に当接して、そして支持脚 1 7 が支持体部分 4 の開口 5 を通過するやいなや、この支持脚 1 7 は再び離ればなれに拡がり、公知の形式で、開口 5 の裏側の縁に当接する。支持体部分 4 としては、この場合何らかのプレート、特に車両ボディのドアフレームを挙げる

20

【 0 0 1 6 】

ヘッド部 1 は、開いた円筒状ボットの形をしており、そして中心孔 7 を備えている。この中心孔 7 の上縁 8 には、円弧の縁から斜めに内向して突出する支持区分 9 が、一体成形されている。支持皿 1 0 の上には、T 字形に形成された保持ピン 1 1 が立っており、この保持ピンのヘッド 1 2 は、このヘッド 1 2 が支持区分 9 を弾性的に拡げながら、中心孔 7 を通って押し込み可能であるように寸法設定されてある。

【 0 0 1 7 】

30

保持ピン 1 1 のヘッド 1 2 は、図示の実施例において、ピンヘッド上縁 1 3 で、中心孔 7 の下縁 1 4 に、全周に均等に分配された複数のウェブ 1 5 を介して、裂断可能に結合されている。これによって、ヘッド部 1 と固定足 2 とは、製造から配送まで、一体的に互いに結合されており（図 2）、また被覆プレート 6 の製造元ではじめて、上側部分 3 の押圧時に、支持区分 9 の弾性的な拡開のもとで押し合わされ（図 3）、その際支持区分 9 は、ピンヘッド 1 2 が通り抜けた後、再びはね戻り、そしてこの支持区分 9 の縁 1 6 にて、ピンヘッド 1 2 の下部を支持している。

【 0 0 1 8 】

図 5 a ~ c から分かるように、保持ピン 1 1 のヘッド 1 2 は、押し込まれた状態において、支持区分 9 の縁 1 6 に対して、半径方向に摺動可能であり、それゆえ固定足 2 は、支持体部分 4 の開口 5 に差し込まれた時、問題なく正しい位置に方向付けられることができる。

40

【 0 0 1 9 】

上側部分 3 は、図示の実施例では、被覆プレート 6 に統合、つまり一体成形されており、またリング 1 9 によって構成されている。このリング 1 9 の縁 2 0 は、幾分外側を向いている。それに対応して、ヘッド部 1 は、ヘッド部上縁 2 2 の全周に配置された内側に突出している少なくとも 3 つの係止突起 2 1 を有しており、これらの係止突起 2 1 は、縁 2 0 とスナップボタン状に協働する。

【 0 0 2 0 】

図 3 は、押圧によって上側部分 3 と組み合わされた状態にあるプラスチッククリップを示

50

しており、固定足 2 を矢印「E」の方向に、支持体部分 4 の開口 5 内へと押し込む以前である。図 4 は、支持体部分 4 内にしっかりと固定されたプラスチッククリップを示しており、固定足 2 が支持体部分 4 の開口 5 内にある一方で、上側部分 3 は矢印「L」の方向に取り外された後である。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 被覆プレートに一体成形された上側部分と、その下の配送状態にあるプラスチッククリップの側面図。

【図 2】 図 1 の線 I I - I I にそって切断した同じプラスチッククリップと上側部分。

【図 3】 支持体部分の開口と、その上の押圧によって上側部分と組み合わせられた状態にある同じクリップ。

10

【図 4】 開口に差し込まれた後に、上側部分が取り外された同じクリップ。

【図 5 a】 組み立てられたクリップにおける、保持ピンに対する半径方向へのヘッド部の摺動可能性を示す図であって、保持ピンに対するヘッド部の第 1 の位置を示す図である。

【図 5 b】 組み立てられたクリップにおける、保持ピンに対する半径方向へのヘッド部の摺動可能性を示す図であって、保持ピンに対するヘッド部の第 2 の位置を示す図である。

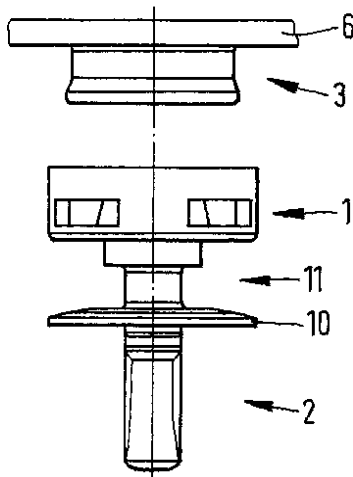
【図 5 c】 組み立てられたクリップにおける、保持ピンに対する半径方向へのヘッド部の摺動可能性を示す図であって、保持ピンに対するヘッド部の第 3 の位置を示す図である。

20

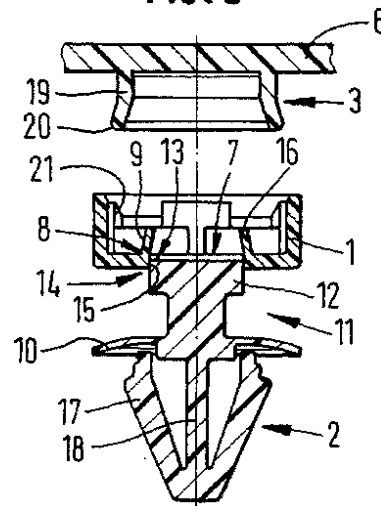
【符号の説明】

1 ヘッド部、 2 固定足、 3 上側部分、 4 支持体部分、 5 開口、 6 被覆プレート、 7 中心孔、 8 孔上縁、 9 支持区分、 10 支持皿、 11 保持ピン、 12 ピンヘッド、 13 ピンヘッド上縁、 14 孔下縁、 15 、裂断可能ウェブ、 16 支持区分縁、 17 支持脚、 18 中心ウェブ、 19 (上側部分の)リング、 20 縁、 21 係止突起、 22 (ヘッド部の)上縁

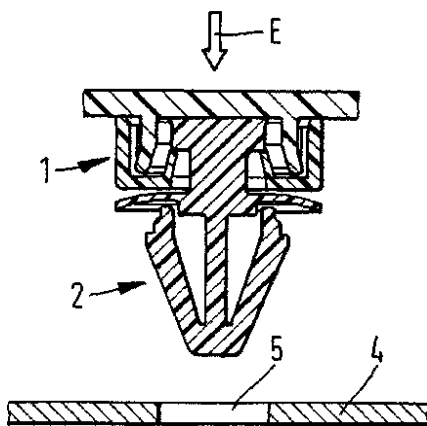
【図1】
FIG.1



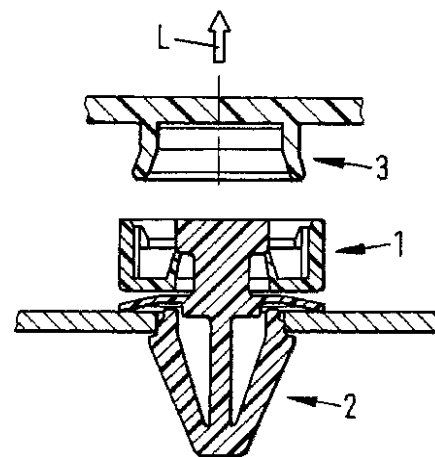
【図2】
FIG.2



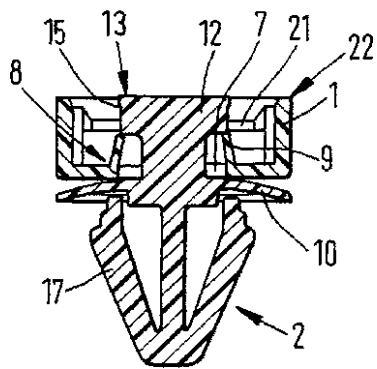
【図3】
FIG. 3



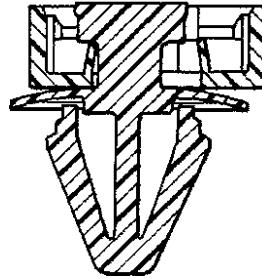
【図4】
FIG. 4



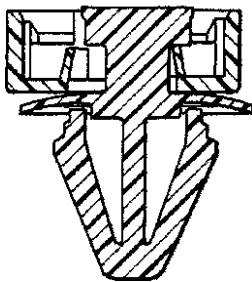
【図 5 a】

FIG. 5a

【図 5 c】

FIG. 5c

【図 5 b】

FIG. 5b

フロントページの続き

合議体
審判長 溝淵 良一
審判官 磯部 賢
審判官 大町 真義

(56)参考文献 特開平 6 - 1 0 9 0 1 3 (J P , A)
実開平 4 - 1 8 7 1 2 (J P , U)
実開平 1 - 1 5 6 3 0 5 (J P , U)
実開昭 4 7 - 2 1 0 7 0 (J P , U)
特開昭 5 9 - 1 6 4 2 4 6 (J P , A)
実開昭 5 8 - 8 5 5 5 0 (J P , U)

(58)調査した分野(Int.Cl. , D B 名)

F16B21/06
F16B5/00
F16B19/00